

小学4年2組 音楽科学習指導案

指導者 小林佳子

1. 題材名 ハモるって 気持ちいい! ~リコーダーの響きを歌声にかえて~

2. 授業の構想

(1) 4年生は、昨年の校内音楽会で、初めて部分二部を含めた輪唱形式の歌唱曲に挑戦した。次々とリズムの変化がある楽しい曲に、何度でも歌いたくなる意欲をかき立てられ、とても積極的に練習し、楽しんで演奏することができた。音楽会が終わっても、事あるごとに、だれかが口ずさんだメロディが徐々に広がり、大合唱になっていたということが度々あった。しかし、自分の声を一生懸命出すことや軽快な伴奏と躍動感のあるリズムを楽しみながら歌うことに精一杯で、友だちの声を聴いて自分の声をそろえようとしたり、響きのある声を工夫しようとしたりするには至らなかった。

今年は10月に松江市連合音楽会に参加した。練習の過程で感じたことは、昨年と違い、柔らかく響きのある、無理のない発声ができるようになってきていることである。半年の間に様々な音楽や声にふれ、少しずつ頭声的発声に変わりつつある現状といえる。またリコーダーでは、昨年の校内音楽会で、息圧のコントロールをしながら、曲の雰囲気を出す工夫と共に、柔らかい響きでハーモニーを創る体験をした。この音楽会では、友だちと音を合わせることの楽しさやリコーダーで「ハモる」ことの心地よさを実感することができた。

加えて、本校にはリコーダー検定員制度がある。子どもたちが検定員をめざして、日々テキストを自分で進めている。本クラスにも検定員が3名おり、友だちの検定をするなど、クラスのリコーダー技術向上に力を注いでいる。そのため、全体的にリコーダーの音色が柔らかく美しい。

(2) 「楽器の手本は、人間の声である」という言葉がある。これはまさに声による表現の豊かさに由来するものである。声にも多種多様あり、話し声や感情を伴う声(喜怒哀楽)、そして歌声などなど、それぞれの中でもさらに多くの種類の声がある。しかも声は人の成長によって様々な変化していく。4年生という学年はその変化が顕著に現れる時期である。言い換えれば、歌唱の活動において、高学年に向けての声づくりの段階と言えよう。だからこそ、まず声とはどのようなものなのか、声そのものに目と耳を傾けてその正体を声そのものを通して感じ、気付く、知ることが必要である。ここでは、様々な音楽を通し、様々な声に出会っていく中で、自分の声に耳を傾け、自分の声に気付くようにすることも大切なことである。これは、世界に一つしかない自分の声や、歌声を生み出す楽器本体である自分の体を大切にしていこうという気持ちにも結びついて、声づくりの段階にある児童にとって大切な学習であると考えられる。

そこで、発声の仕方に変容が見られるこの機をとらえ、自分が出している声と友だちの出す声との響き合いに意識を向け、リコーダーで創った柔らかく心地よいハーモニーを歌で体験させたいと考えた。リコーダーは人声が一番近い響きといわれている楽器であり、特にソプラノリコーダーの柔らかく透明感のある響きは、頭声的発声に移行する時期に響きのある歌声をイメージしやすい楽器である。また息圧をコントロールしたリコーダーの音程は正しいハーモニーを生み出すのにも適している。これらの理由から、リコーダーの美しい音色で二重奏することに対して感じた魅力を、「ハモると気持ちいい」という活動の動機づけとして生かしていきたい。

教材は「ゆかいに歩けば」を選んだ。この曲は、3年生の初めに身体表現を伴って歌った曲であり、集会等の退場音楽としても、児童にとってはなじみのある曲である。また、斉唱の部分から輪唱的な部分へ、そして二部合唱へ、さらに再度輪唱的な部分を入れて最後二部合唱で終わるという変化に富んだ構成になっている。さらに、リコーダーでも容易に演奏ができ、リコーダーでのハーモニーを楽しむことができることなどから、児童が興味をもち意欲的に活動できる教材として適切であると考えた。斉唱で、しかも元気よく楽しく歌うことをねらいとしていた3年生時の活動を思い出し、その時のような元気いっぱいの歌声で歌う児童も存在することが予想される。その際にリコーダーの音色を思い出させる。それが、発声の工夫に有効となる瞬間であろう。こんな身近な曲で歌い慣れた曲だからこそ、この度の活動で、響き合うおもしろさやハモることの気持ちよさなど

の新しい魅力を感じることができると考える。

(3)本単元第1次では、まず3年生時にリコーダーで演奏した「エーデルワイス」の二重奏をすることを通して、息圧をコントロールしながら柔らかい響きで演奏したことを思い出させる。美しく重なり合うその響きを、自分の楽器（歌声）でも表現しようという意欲をもたせたい。次に「ゆかいに歩けば」をCDで聴き、歌わせる。ここでめあて「リコーダーの響きを歌声に変身させよう」を確認し、リコーダーで感じた響きを意識して歌おうという意欲をもたせたい。

第2次「音を重ねてみよう」は、音の重なっている部分をリコーダーで練習し、ハーモニーを創っていく段階である。ここではグループで役割を決めて練習させる。ハーモニーが完成したところで、次のステップ「リコーダーのハーモニーを歌に移行」である。リコーダーで音程を確かめながら、リコーダーの音色を意識した響きのある発声をするように声がけをし、リコーダーの響きの美しさ、柔らかさに近づけることを意識させたい。グループ内で評価し合い、リコーダーで繰り返し音色・音程を確かめながら進めていく。最後には、ハーモニーが完成に近づいているグループの演奏を発表させ、次時への目標とさせたい。

第3次においては、全員による二部合唱を完成させ、ハモることの心地よさを感じさせたい。この活動を通して、ハモることのよさを実感させ、その技能や練習の仕方を利用して、「もっと上手に歌いたい」「もっとハモりたい」という願いをもたせたい。この取り組みが、高学年において、より複雑なハーモニーの合唱に取り組もうとする意欲や技能(表現力)の基盤になり得ると考えている。

本時は、互いの声をより一層意識して歌い、響き合う心地よい瞬間を味わうことをねらいとする。そこで、学級全員での合唱ではなく、6人程度のグループを編成しての活動とする。この編成により、相手の声をより意識すると共に、自分の出す声も聴きながら、集中してハーモニーを創ろうとする姿勢が見られることを願っている。友だちの出す音や自分の声を聴きながら、音が重なり合った時の気持ちよさを感じさせたい。

3. 活動展開計画 (全5時間 本時3/5)

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	めあてを知る リコーダーの響きを歌声に変身させよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「エーデルワイス」の二重奏をし、3年生で味わった美しいハーモニーを思い出しながら楽しむ。 ・「エーデルワイス」をリコーダーと歌で演奏する。 ・既習曲「ゆかいに歩けば」を楽しく歌う。 ・めあてを知る。
2	音を重ねてみよう	2 ③ 4	<ul style="list-style-type: none"> 音の重なり部分をリコーダーと歌で演奏する。 ・「ゆかいに歩けば」を「エーデルワイス」のような響きを目標にして練習し、音を重ねてみる。 ③ 「ゆかいに歩けば」を、リコーダー奏から歌声にかえて歌う。 ・リコーダーの音色を意識しながら歌う。 ・リコーダーで音程を確かめながらパートの音とりをする。 ・友だちの出す音や自分の音を聴きながら、美しい音の重なりを工夫する。 ・友だちの声を聴きながら、自分の声と重ねて響き合いを楽しむ。 4 「ゆかいに歩けば」をもっとリコーダーの響きに近づけるよう、グループで練習する。

3	ハーモニーを楽しもう	5	全員で二部合唱をする。 ・パートにわかれ、響きと音程を確認しながら歌う。 ・全員で二部合唱をし、ハーモニーの美しさや心地よさを感じる。
---	------------	---	---

4. 本時の学習

- (1)ねらい
- ・互いの声を聴き合って、声を重ねることの楽しさを味わう。
 - ・柔らかく響き合う声の出し方を工夫することができる。

(2)展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師のはたらきかけと願い
1. 「エーデルワイス」「ゆかいに歩けば」をリコーダーで演奏する。 ・きれいだなあ。 ・柔らかい響きだなあ。 ・気持ちいいなあ。 2. 本時の学習のめあてを知る。	・「エーデルワイス」を演奏させることで、響きの美しさを再確認させたい。 ・「エーデルワイス」と同じ響きで「ゆかいに歩けば」を演奏するように声がけをする。 ・リコーダーが苦手な児童には、一緒に演奏することで安心して練習ができるようにする。 ・息圧のコントロールに気をつけさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">リコーダーの響きを歌声に変身させよう</div>	
・「ゆかいに歩けば」の輪唱的な部分、二部部分を全員で歌う。 3. グループに分かれ、練習する。 ・グループに分かれ、パートを決める。 ・リコーダーから声にかえて演奏する。 (二重唱) ☆ リコーダーの音色を意識して歌っているグループ → ☆ リコーダーなしで歌い合わせているグループ → ☆ 地声で歌ってしまうグループ → ☆ 音程がとれないグループ →	・リコーダーの響きの美しさを、歌声でも表現したいという思いをもたせたい。 ・予め、グループを決めておく。パート決定は任せる。 → 認めの声がけをし、見守る。 → 互いの響きや音程を聴き合い、アドバイスし合うように言う。 → 柔らかい響きを思い出させるような声がけをする。 → 音程がとりにくい時は、リコーダーを頼りにするように言う。 ・グループをまわりながら発表ができそうなグループを見つけておく。
4. 発表する。 5. 今日の学習をふりかえって、全員で二部合唱をし、感想を発表する。 ・リコーダーと同じ声で歌えた。 ・ハモると楽しい。いい気持ち。	・発表は曲の一部分でもいいことを指示する。 ・感想を聞く。 ・発表させる。 ・次時の学習を知らせ、見通しと期待感をもたせる。